

## ■異常気象

7月初めの豪雨では多くの方が被災されました。被害が広範囲にわたり、かつ深刻であるがゆえに、比較すれば小さな被害が広く知られることが無いというケースも非常に多いと思います。おそらく、ほとんどの方に何らかの影響があったものと推察しており、皆様にお見舞いを申し上げますとともに一日も早く元の生活や営農に戻られることを祈っています。

この夏前半の気象を振り返れば、豪雨の後は1か月以上に亘って過去にない猛暑と雨の降らない日々が続きました。この原稿を書いている8月初めの時点で、トウモロコシは生育がやや悪く、具体的には茎が細く、低い草丈で出穂しています。出穂後も日照りが続いているので、葉っぱも巻き上がっています。イタリアンの再生草も、ギシギシが強烈に繁茂していることも合わさって、今年は例年以上に良くないです。一方、イタリアンの一番草収穫直後にブロードキャスターで散播しただけのスーダンは、発芽が悪かったのですが、イタリアンの二番草よりも生育が良く、ロール数は稼いでくれそうです。夏がこれだけ暑くなれば、イタリアンの再生に期待するのは止めて、スーダンに主体を変える方が乾物量確保には得策です。

## ■冬作計画

畜技の自給飼料栽培は、夏作(トウモロコシまたはイタリアン+スーダン)と冬作(イタリアン、一部でライムギ)の繰り返しです。そのため、夏の終わりの収穫は次の播種作業と一体の流れで計画します。検討することは、除草処理、播種時期、草種、品種、施肥(種類と時期と量)です。当然ですが、検討結果は来年の夏作を制限することになります。

夏から冬への作業で重視していることは、イタリアンでは、積雪までに30cmに生育させることを目指して、播種適期を逃さないことと基肥です。畜技圃場でイタリアンの量を左右する要因は、①3月の追肥が、②春の日照を受けて、③光合成にどれだけ効くかです。追肥が効くためには追肥時点である程度の生育が必要だと思っています。こうしてできるイタリアンは草丈150cm超です。栄養面からみれば出穂期の収穫が望ましく、遅れば消化率とCPが低下し、倒伏の危険が増えます。畜技では1か所に2~3日間の収穫調製日数をかけて約17haを順次サイレージ調製しています。今、育成に給与しているイタリアンサイレージは

今春の収穫調製分です。ひよろ長くなり、倒伏が多かったのですが、モアで刈り取れる程度だったこともあり、まずまずの品質に仕上がっています。

## ■畜技の収穫体系

夏作は、トウモロコシを5圃場5.8haで作付けしており、昨年に続いて汎用型微細断飼料収穫機+コンブレイプ体系で収穫調製します。この2つの機械は西日本農業研究センター(福山市、国立研究開発法人農研機構の一機関)の所有機で、改良試験データ取得のために、畜技を主舞台に稼働させています。収穫を迎えるまで、アワヨトウや干ばつ、そして猪の害が無いことを祈る日々ですが、この号が皆様のお手元に届く頃の8月最終週には収穫する予定です。

この収穫機械については、これまでも本欄でご紹介していますが、画期的な品質のサイレージを調製することができます。コスパの上がる面積規模、価格、移動手段、労務など、どのような機械にも制約条件はありますが、総合的に考えて、中山間地での飼料作にベストの機械体系です。庄原市では、和牛用TMRの原料に用いる稲WCSを供給するために昨年からワゴンタイプの導入を行っています。近県では、岡山県津山市の酪農グループがロールタイプを導入して、トウモロコシからたちすずかへと8月から11月まで収穫事業をリレー展開しています。

※畜技が行うトウモロコシや飼料用稲(たちすずか)の収穫作業やサイレージの出来具合を見学したい方は、0824-74-0332(技術支援部)までご連絡ください。



微細断収穫機

内容に関するお問い合わせは、畜技センター技術支援部へご連絡ください。(電話 0824-74-0332)